

## [COMMUNION]

WEB:http://www.nskk.org/

tokyo/index.html

E-mail:comm.tko@nskkn.org

PHONE:03-3433-0987

FAX:03-3433-8678

Diocese Office



## 司祭 テモテ 小笠原 忍師を偲んで

司祭 笹森 田鶴



テモテ小笠原忍司祭は、司祭としてのディシプリン、つまり規律、そして優先順位の明確なお方でした。ご自身のすべき事柄や選ぶべき事柄は、すべて神によって示されているという確信をお持ちだったからです。ご自分がどうしたいかではなく、主がご自身を通して何をされようとしているのか、ということ

について、日々言葉と祈りによって求め、その役割を全うすることを第一に念頭におかれて日々を過ごしておいででした。そのディシプリンに従い、キリスト者として、司祭として、するべきことがあればそれは当然なことである、ということに何のてらいも、気負いもないお方でした。その役割を負っている以上、自分の好き嫌いの判断ではなく、また人が嫌がるような役割であっても、ただ実施するのです。

以前、小笠原先生がおっしゃってくださったことがあります。「常置委員会が

何かを判断する場合、少し厳しいと思われるぐらいで良いよ。そうすると、主教がまああと割って入ってきて、主教が聖職を指導したり、纏めたりすることが容易になる。そうやって教区が纏まって教区全体の益となっていくければ良いのだから。」

まさにご自分がどう思われるかよりも、どうしたら教区全体が主の僕の共同体として仕えていくことができるかということだけに思いを向けられていた小笠原先生らしいご発言だと思っただけです。そして、わたしは後輩聖職は、そのような小笠原先生にきちんと叱ってもらえたという非常に有難い経験をそれぞれ持っています。

2013年3月、多発性骨髄腫の診断を小笠原先生は受けます。あと2年という宣告後、非常に厳しい病状に何度にもなりました。しかしその度に病気にも苦しみの中でもその状況をすべて受け入れておられました。病状が和らい

でも、やはり体力を落とされず。そして少しずつご自分のできることが減っていった時においても、ますます精錬された司祭としてのディシプリンを全うされ、この聖アンデレ教会において、わたしたちと主日の礼拝をご一緒にしてくださいました。たとえ入堂がご無理であっても、司祭として登壇され、礼拝が進むにつれて力を回復されて、退堂はご一緒ということがしばしばありました。聖堂の段を一步降りることに丁寧に集中しながら退堂されるお姿に、わたしたちは小笠原先生の神への信頼の深さを目の当たりにさせていただきました。決してご無理はされず、しかし神から託された司祭職への忠実なご奉仕は可能な限りきつちりとされる。ただそのことだけに喜びをもって全存在を向けられるそのお姿に、わたしたちはどれほど励まされたことでしょうか。

そして、とうとう2017年2月12日の主日、小笠原先生の思いとは裏腹に体のご不調のために主日礼拝に参加できないという状況になります。そしてご自分の痛みや辛さよりも、主

日礼拝に司祭職として参列できないそのことをベッドで嘆かれ、悲しまれ、同年3月末に聖アンデレ教会囑託を終えられることとなります。

その後、自宅に伺わせていただく折も、ベッドで横になられた方がお楽にもかわからず、後輩聖職にサクラメントへの向き合い方を教えてくださるかのようになり、その時にはしっかりとご自分で座られ、祈りを唱えられ、陪餐する姿を見せてくださり、また教区を案じ、祈ってくださいました。

最後まで司祭としてご奉職くださり、今、この棺の中においても、いつもの礼拝でのお姿のまま横になられています。

わたしには感謝の言葉しかありません。それゆえに、誰よりも小笠原先生が信頼しておられる神を賛美することだけです。おそらく、この場においてわたしたち一同が主に栄光を帰し、神を賛美していることをこそ、小笠原先生が一番喜んでくださり、ご一緒にしてくださいることだと確信いたします。

(通夜の祈り教話より抜粋)

## 2019新しい聖地旅行 その2 新しい聖地旅行（サラーム・パレスチナ主催）も 回を重ねると、伝えたい内容も変化します。

### キリスト教の2000年と パレスチナ問題の今

この旅行のハイライトである十字架の道行は、当時の面影を留めない現在の生活者の場となっていて、そのエピソードに因む箇所での聖書の反芻と、この地域の人々が抱える問題解決に向けての祈りで、キリストの受難も現在パレスチナ人の受難も通底する物は変わらない事に思い至る。その到達点に建つ聖墳墓教会には、有史以来相克を繰り返してきた、その教義も異なる5つの教会が、今はイエスの大きな懐に抱かれるように一つ屋根に共



十字架の道行きの 第13留 イエスが十字架から降ろされたとされる石にひれ伏して祈る巡礼者たち（聖墳墓教会内）

動の担い手、サビール（注）との交流は本旅行の目的の一つで、彼らから聞く現実に、我々が見聞きしている知識は当局のプロパガンダであつ

存している様は、感動的である。パレスチナ祖国回復運

た事を知らされ、己が無知を恥じると共に、この遣り切れない気持ちの正体は、この現実にはパレスチナ人がこの地から消滅するまで続くのではないかと言う恐怖から来るのだと悟る。長い西洋史で常に被害者であったユダヤ人が、この地では何故斯くも傲慢、無慈悲になれるのか、悩みは深い。旅程の最終盤、清涼且つ安寧な環境下、ガリラヤ湖畔の修道院で与った聖餐式と黙想会に深く感謝すると共に、この両者が一日も早く和解し、この様な平穏と落ち着きを取り戻す事が出来る事を願わずにはいられなかった。（M・U）



の参加者に最大の満足を提供することに心砕く一方で、パレスチナ人の置かれた状況を熱くユーモアを交えて語ります。祖先是ペンテコステ以来のエルサレムのクリスチャンの旧家の一つだそうで東方教会に属します。

私たちの友人オマール・ハラミ 私たちの希望に沿い企画からプログラム遂行まであらゆる手配をし、かつ案内ガイドを務めてくれたサビールの職員です。律儀できめ細かくすべて

期を過ごし、自分たちは何を為すべきか悩んでいたところ教会の司祭はクリスチャンが政治活動などすべきでないと言葉を用いていさめたため司祭に対抗する手段として初めて福音書を通読。イエスの恵みに満ちたメッセージに感動、喜びにあふれたそうです。キリストの福音は固定された理解ではなく、虐待されている人々が束縛から解放される正義と平和のメッセージであると説くサビールのアテイク司祭に出会い、活動に参加するようになります。（A・I）



マウント・プレシピス（イエスが十字架をかけた高い山）からは肥沃なイエズレル平原が眺められる

に関する記録を、村人たちの証言を基に収集し纏める仕事に邁進していた。結婚を機に、日々厳しい現実と向き合うこれまでの働き方に折り合いをつけて、別の形で「公正」を実現すべく、オマールと共にサビールを支える事にした。今の仕事に遣り甲斐は感じながらも、結婚を機に心境の変化が表れたという。妻との間に子供を授かった時、果たしてこの土地は家族3人安心して暮らせる場所なのだろうか。



アブラハムの墓のあるヘブロンのかつての繁華街。ゴーストタウンとなった街をパトロールする兵士

聖地旅行で思ったこと 聖地旅行のお誘いを受けた時、一度は行ってみたいと思っていました。受胎告知教会、パンと魚の奇跡の教会、鶏鳴教会と聖書の中にある事に感激でした。ガリラヤ湖で2千年前と同じに穏やかな湖、イエスが福音を述べ始めた場所での黙想会、聖歌363番ガリラヤの風薫る丘で心にしみいる。ヨルダン川で洗礼者ヨハネの宣教の川、イエスもヨハネから洗礼を受け、神の霊が鳩のようになつたと聖書にあるが、素晴らし



アブラハムの墓のあるヘブロンのかつての繁華街。ゴーストタウンとなった街をパトロールする兵士

### アンドラーボス

サビールの活動に共感し2018年に国連職員からサビール職員として新たに加わった。彼もオマールさんと同じ1980年に、パレスチナに生を受けた。ルーツはヨルダン地方のベドウィン族に遡るが、既に遊牧生活から定住生活に移って久しく、彼の祖父母もパレスチナの祖国を追われた身だ。サビール職員になる前の6年間はヨルダン川西岸地区の村々をめぐり、人権侵害や不正

か、と。大義を捨てるわけでは無い。でも、この出口に見えない戦いに彼は内心うんざりし、疲れ果てていた。暴力も差別もない場所に移住することは逃げなのか？揺れ続ける苦しい思いを抱えながら、彼は少し



世界で最も眺めの悪いホテルとよばれる、高さ8mの分離壁の目の前に2017年に建設されたベツレヘムのホテル

一方、元々パレスチナの土地であったイスラエルは1948年から

らユダヤ人が侵入、年々パレスチナ領、侵入によって削られ、高い分離壁で囲まれ、パレスチナ人は税金を負わせられ、ゴミを捨てられ迫害の生活を強いられている。イスラエルにはまだまだ平和がない、どうか主の平和がありますようにと祈る。（K・T）注：サビールとはアラビア語で「道」あるいは「泉」の意味。エキユメニカルかつ非暴力でパレスチナ解放の神学に基づいて平和活動をしている団体。

留学を終えて

司祭 成 成鍾



会やリトリート  
を案内するなど、  
御用のために遣  
わされてきました。20年近  
く、霊性関連のみ働きのた  
めに遣わされていることを、  
私は司祭として頂いている  
自分の召命として受け止め  
ています。

まず皆様に3年間の学び  
の機会が与えられたことを  
感謝致します。神様の導き  
と教区の寛大な配慮で言葉  
では言い表せないほど恵み  
に溢れた時を過ごさせてい  
ただきました。

・経緯

小職は20数年前、神学校  
に在学時から霊性神学に関  
心を持っていました。その  
後も学びと実践を積みつつ、  
霊性修練の実践について雑  
誌に連載したり、共同体の  
霊性修練に関する単行本を  
出版したり、宣教師として  
沖繩教区に派遣されてから  
は、毎年聖職と信徒を10日  
間の大沈黙リトリートに案  
内したりしました。また聖  
公会神学院でチャプレンと  
スピリチュアル・ディレク  
ターとして勤めたときは、  
毎週の黙想会と霊的指導(個  
人・グループ)を行い、霊  
性神学の授業を持ちました。  
教区の司牧現場に戻ってか  
らも、個人霊的指導を行っ  
たり、教会や諸団体の黙想

わされてきました。20年近  
く、霊性関連のみ働きのた  
めに遣わされていることを、  
私は司祭として頂いている  
自分の召命として受け止め  
ています。

ところが、み働きに用いられ  
る機会が増えるほど、誰かを  
霊的に案内することの難しさを  
段々と痛感するようになりまし  
た。自分の至らなさによって尊  
い魂を過ちへ導くことのないよ  
うに、自分の信仰を深めること  
はもろろんのこと、自己研鑽を  
積む必要性を強く感じるようにな  
ったのです。また休まず走っ  
てきた日本での15年間の働きを  
振り返り、時代の変動と共に求  
められる宣教と牧会を準備した  
いという気持ちもあって、主教  
に休職を申し出ましたが、主教  
の提案により留学の形になりま  
した。それゆえ最終的には、理  
論的な研究のために韓国の聖公  
会大学博士課程に入り、その後  
実践的な学びを深めるためアメ  
リカの霊性センターで経験を積  
むという計画を立て、一年半ず  
つ過ごすことになりました。

・韓国での理論的な学び

聖公会大学の博士(Ph.D.)  
課程に在学しながら過ごした  
1年半は、学ぶことの喜びと  
厳しさを同時に与えてくれま  
した。コースワークのため、  
霊性神学を心理学・科学・性・  
消費社会などの現代の諸般現  
象との関連で研究する科目を  
主に受講しました。またコロ  
キオムとあって、学生と教授  
たちが一緒に論文概要を発表  
し論じ合うときが毎週ありま  
したが、それを通して多様な  
刺激を受けられました。今は  
博士課程コースワーク修了の  
ために求められる項目は全部  
クリア、修了に必要な単位を  
とり、外国語試験・卒業総合  
試験・論文計画書(プロポー  
ザル)審査に合格、また学術  
雑誌に論文を掲載、という5  
つの過程を無事に通りまし  
た。これから論文作成と提出  
だけが残っています。

博士論文のテーマは「霊的  
指導」(霊的同伴とも言う)  
に関するものですが、具体的  
なタイトルは『道場としての  
霊的指導』(仮)となってい  
ます。これは場所論を借り  
て、アイデンティティを失い

身が如何に在り続けること  
が出来たのか、しかも、ご  
自身の評価や鍛錬のためで  
はなく、ただただ神様と私  
たちのために。

・第七の御言葉

「父よ、わたしの霊を御  
手にゆだねます」

今の社会は、他の人に自  
分自身を委ねることを拒否  
する傾向があります。すべ  
ては自分の手で、力で、才  
能でと。しかし、そこまで  
なら「努力」「孤軍奮闘」  
という範囲ですが、すべて  
を自分の思うままにしよう  
と、気に入らないことは拒  
否、拒絶する傾向が強い社  
会に生きています。

私の好きな映画で「キリ  
ストの最後の誘惑」という、  
当時たいへん物議を醸した  
映画があります。  
この映画では、イエス様  
が十字架に磔にされ、その  
痛み、苦しみの極みの中に  
ある心模様が描かれます。  
「ああ、あの時こうしてい  
れば、こんな風にはならな

つつある現代社会、またその  
中にある教会における霊的指  
導の意義を語る内容となりま  
す。具体的には、現代の危機  
の原因を市場と戦場の拡大に  
よって起こってしまった場所喪  
失と読み、場所性回復のため  
のキリスト教的な働きとして  
霊的指導を提案します。霊的  
指導とは三位一体の神が働く  
場に、指導者と同伴者が共に  
参加し省察・識別・形成・統  
合されていく修行の過程であ  
るため『道場』であるという  
ことになりました。

・アメリカでの実践的な学び

アメリカでは、エキュメニ  
カル精神に基づいて設立さ  
れたシャレーム霊性形成セ  
ンターでの霊的指導者プロ  
グラムに参加。世界的にも認  
知度の高い霊性センターで  
あるがゆえにプログラムの  
内容はかなり濃く、実践的な  
学びとして、定期的に2人以  
上に霊的指導を行うこと、霊  
的指導を受けること、霊的指  
導に携わる人々とのピアグ  
ループミーティングに参加  
すること、それ以外にもテー  
マ別に分かれた霊的指導に  
関する文献を読んで幾つか

の小論文を書くこと、また自  
分の霊性生活についての省  
察報告書を定期的に出すこ  
となどが求められています。  
そのうち最も学びになるこ  
とは、プログラムに携わる  
人々との交わりです。彼ら  
は、聖霊に寄りかかる信仰と  
は何か、霊的同伴とは何か  
を、言葉だけではなく存在全  
体を通して示してくれます。  
このプログラムは、12月にま  
とめの論文を提出すること  
で終わります。

これをもって、まだ学びの過  
程が残っている状態ではありま  
すが、3年間の留学についての  
報告とさせていただきます。改  
めて、御  
礼を申し  
上げます  
と同時に、  
これから  
いただいた  
恵みを  
教区と教  
会の皆様  
と分かち  
合うこと  
に力を注  
ぎたく存  
じます。



・第六の御言葉

「成し遂げられた」

「成し遂げられた」と言  
い、頭を垂れて息を引き取  
られた。」ちなみに、この後  
には「父よ、私の霊を御手  
に委ねます」と言っ、息  
を引き取られた。」と続きま  
すが、その意味では2つの  
言葉は重なっており、同じ  
心を語っているといえます。

まずは先にでてくる「成  
し遂げられた」ですが、「大  
きなノルマをこなした、大  
きな仕事を成し遂げた、こ  
れで肩の荷が降りた」とイ  
エス様は言われたのでしょ  
うか? それは明らかに違  
います。

そもそも、イエス様の心  
中奥深くにある思い、確  
信、信念、信仰とは、「す  
べては神様のなさること」  
である。「神様こそが、すべ  
てであられる」というもの  
は、加えて、他者



主教 高橋 宏幸

の重荷を我が物としようと  
いうのがイエス様の生き方  
の軸でありました。そのイ  
エス様が「成し遂げられた」  
と言われるのです。

したがって、そこで言わ  
れている心とは、明らかに  
「神様の思いを、願いを、  
私の中で成し遂げることが  
出来た!」

「神様が望まれることを、  
今まさにを行い、献げること  
が出来た!」  
「神様の思いを、私の思い  
とすることが出来た!」  
であり、その意味で

「成し遂げることが出来ま  
した。感謝します。」では  
ないでしょうか。  
まかり間違っても、大き  
な仕事を終えることが出来  
てやれやれホッとしたとい  
う意味ではないでしょう。  
あくまでも、神様の御心  
をイエス様ご自身の内に置  
かれ、それに向かってご自

・第七の御言葉

「父よ、わたしの霊を御  
手にゆだねます」

今の社会は、他の人に自  
分自身を委ねることを拒否  
する傾向があります。すべ  
ては自分の手で、力で、才  
能でと。しかし、そこまで  
なら「努力」「孤軍奮闘」  
という範囲ですが、すべて  
を自分の思うままにしよう  
と、気に入らないことは拒  
否、拒絶する傾向が強い社  
会に生きています。

私の好きな映画で「キリ  
ストの最後の誘惑」という、  
当時たいへん物議を醸した  
映画があります。  
この映画では、イエス様  
が十字架に磔にされ、その  
痛み、苦しみの極みの中に  
ある心模様が描かれます。  
「ああ、あの時こうしてい  
れば、こんな風にはならな

・第七の御言葉

「父よ、わたしの霊を御  
手にゆだねます」

今の社会は、他の人に自  
分自身を委ねることを拒否  
する傾向があります。すべ  
ては自分の手で、力で、才  
能でと。しかし、そこまで  
なら「努力」「孤軍奮闘」  
という範囲ですが、すべて  
を自分の思うままにしよう  
と、気に入らないことは拒  
否、拒絶する傾向が強い社  
会に生きています。

私の好きな映画で「キリ  
ストの最後の誘惑」という、  
当時たいへん物議を醸した  
映画があります。  
この映画では、イエス様  
が十字架に磔にされ、その  
痛み、苦しみの極みの中に  
ある心模様が描かれます。  
「ああ、あの時こうしてい  
れば、こんな風にはならな

・第七の御言葉

「父よ、わたしの霊を御  
手にゆだねます」

今の社会は、他の人に自  
分自身を委ねることを拒否  
する傾向があります。すべ  
ては自分の手で、力で、才  
能でと。しかし、そこまで  
なら「努力」「孤軍奮闘」  
という範囲ですが、すべて  
を自分の思うままにしよう  
と、気に入らないことは拒  
否、拒絶する傾向が強い社  
会に生きています。

私の好きな映画で「キリ  
ストの最後の誘惑」という、  
当時たいへん物議を醸した  
映画があります。  
この映画では、イエス様  
が十字架に磔にされ、その  
痛み、苦しみの極みの中に  
ある心模様が描かれます。  
「ああ、あの時こうしてい  
れば、こんな風にはならな

第4回女性団体連絡協議会

女性の課題に関する担当者(女性デスク) 京都教区司祭 大岡 左代子

9月3日(火)〜4日(水)、「第4回女性団体連絡協議会」を開催しました。(於:管区事務所/牛込聖公会聖バルナバ教会ホール)この協議会は「情報と課題の共有にむけてのネットワークづくり」のため、女性デスクが日本聖公会に連なる女性の諸団体・グループ、女性の支援やエンパワメントに関わっている団体・グループに呼びかけて行っているもので、11の団体・グループから15名の参加者がありました。今回は特に「性暴力防止」と関連「持続可能な開発目標(SDGs)エス・ディー・ジーズ」をテーマとし、1日目はフォトジャーナリスト大藪(おおよぶ)順子(のぶこ)さんの公開講演会と写真展示を実施、2日目はSDGsの取り組みを中心に考える時間をもちました。



大藪さんは、米国滞在中にレイプ被害をうけた経験を中心に、お話くださいました。特に、

加害者に寛容な日本社会の状況を指摘され、ともすれば被害者が責められてしまう風潮を決して許してはいけないことを再認識させられました。また被害後、いくつか回った教会は自分の居場所ではなかったという告白は決してよそ事では

の地位委員会(CSW63)に聖公会代表団の一人として参加された金子登美江さん(管区事務所総務主事・北関東教区)の報告を聞き、関連「持続可能な開発目標(SDGs)」は、アングリカン・コミュニケーション宣教の5指標と繋がっているという指摘に目からウロコ。その後、カラー付箋の作業を通じて各団体の活動とSDGsの17の目標との関連を確認し合い、今後の課題について意見交換をしました。関連で決議されたものとして聞くと私たちには縁遠いものと思いがちですが、17の目標は、あらゆるいのちの、社会正義、人権の問題としてまさに宣教課題と結びついており、「誰一人取り残さない」というフレーズは、イエスの福音と直結するものではないかと気づかされました。ぜひ活動の場を持ち帰り、SDGsについても広めていきたいと確認しました。



母親のことを韓国語で「オモニ」と言う。タイトルから分かる通り、これは歴史的な記録ではなく、母親の人生を小説の形式を借りて復元したものだ。小さく体、家族のすべてを背負って、時代を超えてきた姜氏の母が、世の中の「オモニ」が描かれている。姜氏は「オモニ」という存在は私にとって大きな慰めである」と言っている。かけがえないオモニの思い

出こそが生きる原動力ということだろう。圧倒されるほど強い母親だったのが、家族のためずっと自分を犠牲にし、とてつもなく大きな愛で生き抜いたオモニから、十字架の上のイエス、限りない愛を示してくださる神の姿が伺えたと言ったら言いすぎだろうか。でも、遠藤周作の言った通り、母親の温かさの根源は神様の一部だったと告白せざるを得ない。著者は、オモニはどぶ泥のような悲惨さの中で、悲しくて辛い時に祈りをささげていたと思ふ浮かぶ。その様子を、「陰鬱で荒い息を吐きながら包丁を振り回し踊り塩を振りまいていた」と表現している。一時は呪術的な迷信に見え、過去の遺物に過ぎないと思っていたのに、歳をとると、その祈りの姿が恋しく親近感を覚えるようになり、理性的に考え合理的な言語を使いながら忘れていたのは、まさにこの祈りの世界であることに気づき、これが本著を書いた理由だったということである。

大震災の前で無力だった科学と技術、知識で武装している今の時代が忘れておられる。何なのかを改めて考えさせられる。また、オモニの言う通り「これからはチヨースンもニッポンもない世界がくる」と祈る。

ようこそキッドスクールへ

さまざまな働き [2]

子どもが子ども時代に子どもらしく過ごす。この当たり前前が出来ない時代だと感じています。「嫌な事はいやー」「良い事はよいー」とはっきり表現できる子ども時代にしつかりその気持ちを出させる。それを受け止める。そのシンプルな事が本当に難しいのですね。「受け止める」とは? その通りにさせるとは限らず、その気持ちを理解することです。イエスマのなされた行いがまさに大人の指針なので



大人の指針なので。教会が子どもを育つ場を持つことは大きな意味があります。子どもの中に神様と出会う機会が沢山あるからです。発達のケアが必要なのも健全な子ども共



1978年深川勤労青少年センター(深川の地で材木屋さんで働く地方出身の若者の集う場所)の10年目にセンター内のまこと学園(茶道・洋裁・書道・絵画・ピアノ・英語教室)の幼児部門としてキッドスクー

育つ、大人も子どもの発達(自らが育つ)を知り、良い援助者になる事が目標です。子どもを持ち育て、大人も育っていくのです。子ども時代に泣いて笑って怒って、また笑ってと生き生き過ぎてほしいものです。与え過ぎ、準備し過ぎることで子どもの育つ場を奪い取ってしまっています。人間は自分で自分を創る力を生まれた時にちゃんと神様から頂いてくるのです。キリスト教保育の原点です。9月に入り、10月5日の運動会に向けて準備が始まりました。「まこと大運動会」は、0歳からお年寄りまで一緒に楽しめる会です。卒園児は勿論、地域の子ども、御父母の参加競技も沢山あり、見る会より参加する会です。

の地位委員会(CSW63)に聖公会代表団の一人として参加された金子登美江さん(管区事務所総務主事・北関東教区)の報告を聞き、関連「持続可能な開発目標(SDGs)」は、アングリカン・コミュニケーション宣教の5指標と繋がっているという指摘に目からウロコ。その後、カラー付箋の作業を通じて各団体の活動とSDGsの17の目標との関連を確認し合い、今後の課題について意見交換をしました。関連で決議されたものとして聞くと私たちには縁遠いものと思いがちですが、17の目標は、あらゆるいのちの、社会正義、人権の問題としてまさに宣教課題と結びついており、「誰一人取り残さない」というフレーズは、イエスの福音と直結するものではないかと気づかされました。ぜひ活動の場を持ち帰り、SDGsについても広めていきたいと確認しました。



中、働く女性の為にと保育園が出来、学童クラブが、そして20年前特別養護老人ホームが合築され、「まこと地域総合センター」という複合施設が時代先取りで開始されました。幼児施設は保育園一本で、キッドスクールは閉園という決断が下りました。しかし、在園父母・卒園父母と教会信徒が初めて話し合いの時を持ち、複合施設の中にスペースが出来、牧師館を外に作ることで決着しまし

た。教会立の幼児施設として、園児は勿論、御父母も教会の様々な行事に参加され、教会信徒の支えにより、この20年間歩んできました。ここでまた新しい課題が持ち上がりました。10月から施行される「幼児教育無償化」の対象外とされたキッドスクール。問題が起きた時がまさに考える時です。モンテッソーリ教育という素晴らしい教育方法を土台に、縦割りの子ども同士で育ち合うキッドスクールの良さが継続できる良い方法があるはず。この複合施設「まこと地域総合センター」の種をまいて下さった初代園長「鈴木勉司祭」が亡くなり24年。過去を知り、これからの30年を見据えた計画を考える時がやってきました。どうぞ皆さまお祈りのうちにお覚え下さり、お支え下さいますことを切に願います。

聖救主教会キッドスクール 園長 宮本 恭子

《信徒リレーエッセイ》

教会の松の木

聖愛教会 増岡 眞紀子

現在の聖愛教会の聖堂は、およそ60年前に立教小学校の古い校長室と事務室を移築したものです。聖堂の横には、それよりも前(多分戦前)から松の木が生えています。小田急線の電車の中から松の木が見えると我が家に帰ったようで、ホッとします。

たくさん、松ぼっくりを落とすので、クリスマスリースやバザー用品の制作にも一役買ってくれます。時々、近所の小学生が工作に使いたいと拾いにも来ます。

ところが、10年ぐらい前からカラスが巣を作るようになり、通る人に食べ滓を落とすので、おちおち下を歩けません。特に5・6月頃は子育ての時季なので黒い服を着た人は敵だと思っのか、襲ってきます。

この時代に聖愛の牧師だった先生方は、皆さん被害者でした。



障がい者関連活動連絡会  
第29回「お話を聴く会」

同連絡会実務委員

海宝 晋一

7月6日(土) 聖マーガレット教会で標記の会が開催され、東北教区大館聖パウロ教会信徒の田畑瑠美子さんが、「託された命」と題し娘と歩んだ44年」と題してお話しされました。

田畑さん一家は、44年前、次女の名奈衣さんを授かりました。しかしその子は、生後7か月で脳腫瘍の手術を受け、術後も度々発作と痙攣に見舞われました。田畑さんは各地の専門医を訪ね、幼い子を背に大館と東京を夜行列車で往復する日が毎週1回、1年7か月続きました。30回近く入院を繰り返し、2度の大きな手術を受けました。田畑さんがいなければ消えてしまふような、まさに託された命でした。名奈衣さんが2歳の頃、いっしょに受洗しました。でも、神様には、不平を言い、娘を助けてほ

しい、病気を良くしてほしいとお願ひするばかり、自分のことしか考えられませんでした。

医師に6歳までの命と言われましたが、名奈衣さんは支援学校を卒業しました。しかし、卒業後、することがなくなってしまうこと。そんな時、司祭様が、



牛乳パックを使った紙漉きを勧めて、道具も作ってくれました。二人で始めると、名奈衣さんのお気に入りになりました。パックの内側のフィルムを上手に剥がすのです。名奈衣工房と名付け、紙を漉き、手紙やカードにして、皆に贈ると喜ばれました。ある方が、市の

教育委員会に紹介してくれました。委員会から、身なりサイクルとして、市内の学校で教えてほしいと依頼され、名奈衣さんも行くことを条件に引き受けました。始めは、名奈衣さんを遠目に見ていた子どもたちも、実習になると心を通わせてきました。名奈衣さんも見本を示しました。

そのころ、担当医師から、院内学級に名奈衣さんを連れて来てほしいと誘われました。入院を繰り返した名奈衣さん故の依頼でした。心を病んだ子もいました。お引き受けし、月に1〜2回二人で訪問し、ケーキや小物作りを楽しみました。

ずいぶん時間はかかりましたが、神様の御心が少し分かった気がしました。自分を用いてくださったのだと。名奈衣さんがいたから、多くの人と出会い、沢山のことを学ぶことができました。困難を抱えている人やご家族のために、背中を押

されているような気がしました。友人らと、近隣の支援学校で紙芝居の読み語りを始め、それはポケットの会として、30年経った今も高齢者・障がい者施設を訪問し、楽しい時間を提供しています。

この日、ご長女に付き添われ、名奈衣さんは開会礼拝と昼食を皆と共にしました。歩くことも、話すこともできませんが、仕草や表情で、時には腕を掴んで意

志を伝えてくれます。田畑さんのお話で投影されたアルバムの名奈衣さんはいつも皆に笑いかけています。配布された東北教区報「あけぼの」の田畑さんの文章は、こう結ばれています。「御心のままに、導かれる光のもとへ顔をあげて進んでいきたい。娘とともに。」

◇ ◇ ◇  
次回クリスマス号

12月22日発行予定

ちょっと聖書、ときどきユーモア (四十五)

1. 夫婦喧嘩

信徒「先生は夫婦喧嘩をした時、仲直りはどうですか」  
牧師「そんなことは簡単だよ、とにかく私が悪かった、ごめんなさい」と謝れば大抵の喧嘩はおさまると教わったからね」  
信徒「それは誰の教えですか、聖書の教えですか？」  
牧師「違うよ、うちの妻の教えだよ」

2. 飛行機の中で

CA「すみません、緊急事態です。具合が悪くなりました。乗客の皆様の中に牧師さんはいらっしゃいませんか」  
牧師「私は牧師ですが、普通、具合の悪い人がでた場合、医者を探さんじゃないですか？」  
CA「いえ、いいんです。具合の悪いのはエンジンで、もうすぐ墜落しますから、最後にお祈りをしていただこうと思ひまして・・・」

3. 幸せな気持ち

信徒A「昨日、牧師になって働いている夢を見たよ」  
信徒B「それは素敵な夢を見たね、さぞかし幸せな気持ちになつたでしょ」  
信徒A「うん、目が覚めたときにはね」